

ひょうご人生 100 年時代プロジェクト推進委員会（第 9 回）議事要旨

- 1 日 時 令和 3 年 2 月 19 日（金）10 時 00 分～11 時 05 分
- 2 場 所 web 開催
- 3 出席委員 藤原久義（委員長）、上村敏之、小林由佳、笹嶋宗彦、杉村和朗、
武久洋三、名須川知子、邊見公雄、米沢なな子
〔欠席委員〕大和三重、空地顕一
- 4 議 事 等
 - (1) 第 8 回委員会の議事要旨の確認
 - (2) 提案書(案)について
 - (3) 今後の対応について
 - (4) その他

【議事等の概要】

(1) 第 8 回委員会の議事要旨の確認

事務局が作成した前回委員会の議事要旨案について、委員に事前確認願い、特に修正等の意見はなかったことから案のとおりとし、県ホームページにおいて公開することを確認した。

(2) 提案書(案)について

事務局から提案書(案)の修正箇所について、藤原委員長からその考え方等を説明し、意見交換を行った。提案書に追記する意見については各委員から事務局へ送付することとし、今後、本文の微修正や新型コロナの感染状況等に関する数字を最新のものに置き換えることについては、委員長に一任することとなった。

《主な意見》

- ベーシックインカムに関する記述をベーシックキャピタルに置き換えてはどうか。ベーシックキャピタルとは、イギリスのケースで考えられているものだが、18 歳になった子たちに、150 万円を支給するもの。ベーシックインカムでは、毎年なんらかの給付を行うが、ベーシックキャピタルは 1 回だけで、あとは、自分たちで頑張りなさいという視点。これを踏まえた修正文を後で事務局へ送る。
- 少子化についての調査をした際、多くの親から、大学進学の際にお金が多くかかるため 2 人目 3 人目は躊躇すると言われた。ベーシックインカムとすると、なかなか動かないが、ベーシックキャピタルとなると 18 歳の 1 回限りのため、現実的にはこちらの方がいいと思う。
- 急性期病院は、病床稼働率が 95% なければ、黒字にならない。医療と教育にもう少しゆとりが必要だ。具体的でなくてもいいが、どこかに入れられないか。
- 3 人目を産めば 1,000 万円を払うなど、子供を産むモチベーションをあげるような政策を提案してはどうか。

- この件について、1,000 万円ではないが 100 万円と言うアイデアを記載している。その次ページに財源を示しており、100 万円だと県民の納税者負担が月額 722 円。1,000 万円だと月額 7,220 円という規模感となる。あとは決断だけ。
- まずは小さく導入するのが大事。ベーシックインカムと全く同じ話で、ベーシックインカムだと巨額過ぎて誰も動かないが、ベーシックキャピタルだと、ある程度動く可能性がある。
- まずは、そういう考え方を導入するということで承知した。将来的には 1,000 万円くらい考えてもいいと思うが、今はとにかく 100 万円でも 3 人目に対して支払うというのは非常に重要だ。
- 妊娠してもらうためには結婚してもらうことが大事。表現が難しいとは思いますが、少子化の所に、県として結婚したい人が結婚しやすくなる支援が必要ということを入れてはどうか。
- 不妊治療に医療保険が使えるようになったということはよい。
- 生まれた直後に 2 週間ぐらい、母子ともにちゃんと支援するような施設に入る等も含め、「兵庫モデル」を提案している。結婚から出産、育児を同じ人が継続してサポートする体制を整備し、兵庫県だと相談しながら、お金のサポートと精神的なサポートが得られるということを打ち出すことを記載している。
- コロナのこともあり高齢者だけではなく、子育て世代が大都会から 1 時間以内で動けるところに移動するケースが増えてきている。
若い人だけ、高齢者だけが住むのではなく、多世代が住めるようなむらづくりが、これからもっと増えたらいい。民間企業の力も必要。
- 18 歳以上への一時金の支給が可能ならば、例えば小学校に入学する段階で全員パソコン買えるぐらいの 10 万円程度をサポートできないか。
県で体制を作り発信している子育て支援や不妊治療等について情報を受け取れず活用できない人がいるが、これによって、兵庫県にいる人は、小学校の段階から情報機器を活用できる体制を整え、皆が小さいころからパソコンを通じ様々な情報にアクセスしていけば、いろんな情報を得られるようになると思う。
- ベーシックキャピタルは成人という自分の財産を、自分でしっかり管理できる時期という点がすごく大事。小学生だと自分で管理できず、親が使ってしまう可能性もあるため、現物給付のほうがよいのでは。

- 高齢者が情報機器を使えないという話があったが、最近、人口比率的に、各社ともスマートフォン使用のターゲットを高齢者に絞らざるをえない状況になってきており、高齢者にも使いやすいスマートフォンなどが開発されてきているため、それほど恐れるには足りないと思う。
- 不妊治療のことで大変いいことが書かれているが、産婦人科を目指す医師が産科、医療に関わるということは重要である。どうしても不妊治療の方が、時間ははっきりしている等、産科医として負担が少ないため増えていく傾向にある。その一方、出産をサポートする医師が少ない、いうことを記載できればと思う。
- 女性が多い職場のほうが男性の育児休暇もサポートしやすいため、男女共同参画の推進についても一言入れたほうがよいのでは。
- 人工中絶がデータに出ているだけで16万人いる。外国では、特別養子縁組を活用し、ほとんど人工中絶してない国もある。特別養子縁組の推進もどこかに書けないか。
世田谷区で実施している産後ケアセンターを兵庫県でも整備してはどうか。